

The 13th Asia Impact Assessment Conference (AIC 2019), Hainan China に参加してきたので、報告する。
http://jsia.net/3_activity/koryu/English/AIC2019/13th%20AIC2019%20cum%206th%20SEA%20Forum_Second%20Announcement_v1.pdf

日時：2019年8月22日(木)-23日(金)

場所：Hilton Hainan, Haikou, China

出張者：橋本隆子、定行深雪(商経学部2年)

AIC2019 はアジアの Impact Assessment に関する学会であり、the 6th China Strategic Environmental Assessment Forum と並行して開催された。オーガナイザーは、Nankai University, Beijing、Normal University, the Chinese、University of Hong Kong and the Hong Kong Institute of Environmental Impact Assessment である。全体の参加者は、250名程度(橋本概算)。うち、40名程度が中国外から参加していたと思われる。AIC2019において、キーノートを除く発表は23本。うち11本が日本人の発表であり、日本のプレゼンスはかなり高かったと考えられる。残りの12本の発表は、中国(香港含む)8本、韓国4本。

8月22日(フライトの都合により、オープニングキーノートの2本目から参加)

- ・ キーノート：Reshaping Impact Assessment to Respond Human Survival Challenge (Prof. K.C. Lam, City University of Hong Kong)
従来のEA(Environmental Assessment)の手法は、気候変動や生物多様性損失に対応できていない。従来のツールをより proactive な形で活用する必要がある。
- ・ オープニングセッション終了時点で、1時間ほどの delay.
- ・ セッション1-1：Towards Ethical Commerce -the first university of RE100 in Japan (Prof. Takako Hashimoto Chiba University of Commerce) 橋本の発表
商大のRE100の取り組みに加えて、電力消費量の解析状況、地域との連携などを紹介。ついでにIAIAの日本支部オフィスがCUCに移ったことも紹介。時間が押していたこともあり、Q&Aセッションはカットされたが、発表後に「SDGs 実現のための大変良い事例だった」「非常に興味深い取り組みである」といったコメントを頂戴した。
- ・ セッション1の2本の発表が、午後のセッションに移される。
- ・ セッション2-1：Reforming EIA System - A Comparative Review (Prof. Wu Jing, Nankai University)
各国のEIAシステムの紹介とその比較。中国はEUのEISシステムを参考にすべき。サーベイ発表。

- セッション 2- : Strategic approach for windfarm development (Prof. Takehiko Murayama, Tokyo Institute of Technology) 村山先生の発表。

RE の推進と環境保護のバランスを取る必要がある。特に風力発電に注目し、北海道石狩市におけるベストプラクティスを紹介。
- セッション 2- : China's photovoltaic development strategy (Xu Yuan, Associate Professor, The Chinese University of Hong Kong)

近年、中国でも RE が増加している。日本は Solar PV が大半を占めているが、他国では、Solar と Wind turbine のバランスが取られつつある。ただし開発者によるボトムアップ・アプローチは戦略的ではない場合がある。中国政府は、Solar PV と Wind Power のバランスについてもっと Guide する必要がある。
- セッション 2- : Climate Change Impact and EIA System (Prof. Mitsuru Tanaka, Hosei University)

日本やフランスなどにおける近年の気候変動は極めて危険。気候変動に対応した EIA のやり方を考える必要がある。科学的かつ社会的観点を取り入れた EIA システムの提案。
- セッション 2- : The Key Roles of Comprehensive SEA & EIA for Carbon Capture and Storage in Japan (Kentaro Nakamura/Prof. Kenichiro Yanagi, Meiji University)

CCS の対応には long-term の戦略が必要。
- セッション 2- : EIA Implementation during Construction of Central-Wan Chai Bypass (Mr. Mohamed Hasan Isa Hong Kong Institute of EIA)

Central-Wan Chai Bypass という道路を造る際の、EIA Implementation 事例の紹介。Social Media なども活用している。
- セッション 3- : Case Study of Quantitative Ecological Impact Assessment on Satoyama Ecosystem (Prof. Akira Tanaka, Tokyo City University) 田中先生の発表

愛知県で実施している里山 Conservation プロジェクトの紹介。Habitat Evaluation Procedures (HEP) は里山の EIA に有効である。
- セッション 3- : Practice of Environmental Impact Assessment in Hong Kong: The case of Lei Yue Mun Waterfront Enhancement Project (Ms. Jenny Tsang Environmental Protection Officer Hong Kong SAR Government)

香港の EIA プロセスの事例紹介。その事例を通じて、EIA を効果的に推進するための知見を得た。例えば、プロジェクトの背景や目的をステークホルダーと共有することや、Proactive Initiative が重要であることなど。
- セッション 3- : Impacts of urban development and human activities on two mangrove ecosystems along shenzhen river: a comparison study between Mai po and Futian Mangrove nature reserves (Dr. Jinping Cheng, The Hong Kong University of Science and Technology)

深セン河口沿いのメタル汚染に対するマングローブ保護地の IA 事例紹介。多様な生育環境。ラムサール条約で保護もされている。都市開発は大きな役割を果たし、重金属に関する IGO index の活用が重要。
- セッション 3- : Building Asian Connection to Control over the Transboundary Air Pollutants (Dr.

Jung Jong-Gwan、 Senior Research Fellow Chungnam Institute(CNI))

Air Pollution に対する IA。アジアでは Air Pollution は大きな問題。国をまたいだ問題なので、local -> regional -> global といった階層を考慮する必要がある。

8月22日 (AIC2019 2日目)

- セッション 1 - : Slowly but Steadily: South Korea's integration of the social safeguards in EIA system (Ms. Lee Eunyoung、 Gaia Consult Inc.)
コンサルティング会社の方のプレゼン。Social Impact Assessment に関する発表。コミュニティを含め、我々を取り巻く全てのことが environment になる。SIA は EIA を include する。ESIA。SIA のタイプについて紹介。SIA の重要性がますます増してくる。Engineering においても重要。
- セッション 1 - : Trends of Biodiversity Offsets in Japan (Mr. Takafumi Kawamura、 Tokyo City University)
Biodiversity Offset の事例紹介。特に重要なケースを紹介。開発承認の前に生物多様性オフセットが解決されている事例など。
- セッション 1 - : Building the First World Class Thoroughbred Training Centre and Racecourse in Conghua China Design, Implementation, Opportunities and Challenges (Mr. Samuel Kwong、 Senior Manager Hong Kong Jockey Club)
Water Management を行っている Jockey Club Training Center の紹介。Jockey Club で EIA のプロジェクトを行っているのが興味深い。
- セッション 1 - : Assessment on Social Impact related to Coral Offset (Shingo Takeda、 Tokyo Institute of Technology)
Coral オフセットについての紹介。課題も多く、うまくいっていない。以下にして Coral を保護していくかは大きな問題。
- セッション 2 - : Case study of biodiversity offset in airport- Sunshine coast airport, Australia (Chun Chen、 Tokyo City University)
オーストラリアの空港における biodiversity offset の事例紹介。Sunshine coast airport expansion project. Direct offset と indirect offset の目標と成果の紹介。
- セッション 2 - : Study on Community Renewable Energy Project in Yogyakarta, Indonesia (Sita Rahmani、 Tokyo Institute of Technology)
Indonesia の rural エリアでの RE Project の紹介。Developing Country で行うことに新規性がある。この発表が一番商大の RE100 の発表に近い。参考になる部分が多い。
- セッション 2 - : Analysis of the current situation of apple orchard soil in Qixia City, Shandong (Zhuo Huimin、 Shandong University)
中国の地方都市におけるりんご産業の土壌評価に関する EIA。50 年以上かけて、土壌が汚染されている？
- セッション 2 - : USR (University Social Responsibility) for achieving SDGs Activities (Miyuki Sadayuki Chiba University of Commerce) 定行さんの発表

学会全体の雰囲気を読み、SIA 的な要素を発表に追加。なぜ Community を Core-Subject に加えるのかとの質問。学内だけでなく、Community への貢献を評価することが USR にとって重要だからと返答。

全体を通して

IA の学会なので、EIA 等に関するトピックがやはり人気。我々も、もっと IA にフォーカスしたトピックにするなどの工夫が必要だと感じた。SIA や HIA に関する発表も種々見られたので、今後は SIA 等からめて発表していくのも良いように思う。SDGs と SIA、HIA、EIA との関係を考えていくことも重要ではないかと感じた。韓国は発表件数は少なかったが、(その代わりに? 戦略的に? ゲリラ的に?) ポスターを 8 枚出していた。「韓国における IA の歴史と未来」的な内容のポスターもあり、興味深かった。

今回、定行さん(学部 2 年)を同行し、発表をしてもらったが、彼女にとっても大変良い経験になったと共に、CUC の学生のレベルの高さを示すまたとない機会になったと考える。こうした機会をできるだけ多くの学生に与えることができれば、CUC のプレゼンス向上にさらに役立つはずである。



橋本の発表の様子

定行さんの発表の様子

以上